

千葉県オレンジ連携シートのアンケート結果について

1 シート作成の趣旨

認知症支援に携わる様々な専門職が、支援に必要な情報を共有しながら、必要に応じて助言依頼・意見交換なども行うことができ、県内全域で利用可能なツールとして、「千葉県オレンジ連携シート」を作成。

2 シートの使用によって期待される効果

- ・ 伝えたいこと、依頼したいことが一目でわかり、また目的を明示し、必要な情報を伝達することにより、円滑な連携・共同、支援に結びつく。
- ・ 介護から医療への働きかけや、かかりつけ医からの専門医への紹介がしやすくなるなど、関係づくりのきっかけとなる。
- ・ 日常の生活変化や生活場面で見られた情報・課題をタイムリーに共有することができるほか、全県域で使用できる共通様式であることから、日常的な連携の範囲を超えた広域的な連携に有効であると考えられる。

3 利用する場面

- (1) 発信者から受信者へ情報伝達等を行う。(片道)
- (2) 発信者から受信者へ依頼や相談等を行い、それに対して受信者が回答する(一往復)
- (3) 専門職がケースカンファレンス等において記載された情報を共有する。

4 利用者の範囲

法令等で守秘義務が課せられている専門職に限定している。

(職種例：医師・歯科医師・薬剤師・保健師・看護師・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・地域包括支援センター職員・市町村職員・居宅介護支援事業者等)

5 作成経緯

平成 23 年度：千葉県認知症対策推進協議会、認知症連携パス検討・作成作業部会の意見等を踏まえ、連携パスモデル試案作成。

平成 24 年度：県内 4 地域でモデル事業実施（パスの運用実践・評価）。

平成 25 年度：引き続きモデル事業実施。効果や課題等を踏まえ様式改定。具体的な運用方法、運用上の留意点等の検討を行い、「千葉県オレンジ連携シート」の様式及び運用ガイドラインを完成。

平成 26 年度：本格運用開始

平成 29 年度：シート内の記載欄等を修正し、改訂

6 アンケート結果（利用状況）

（1）過去の使用枚数等

調査対象：医療関係者、居宅介護支援事業所、市町村・包括等

調査年度	対象期間	対象人数	使用枚数	使用度*
令和5年度	令和3年4月1日から 令和5年3月31日	5,642人	令和3年度 458枚 令和4年度 299枚	令和3年度 10.0% 令和4年度 7.9%
令和2年度	平成31年4月1日から 令和2年3月31日	5,188人	947枚	19.7%
平成30年度	平成29年4月1日から 平成30年3月31日	3,856人	762枚	25.1%

（「千葉県オレンジ連携シートの利用状況等に関するアンケート」から抜粋）

*使用度（シートの使用度合い）：シートを①発信したことがある、②受け取ったことがある、③会議等で使用したことがある、④その他の使い方をしている、⑤機会があれば使用したい、⑥今後も使用予定はない、から複数選択可として調査した回答総数における①～④の割合

（2）シートに関する意見

（令和5年度「千葉県オレンジ連携シートの利用状況等に関するアンケート」から抜粋）

○ 役に立った例

・病院受診にあたり、事前にケアマネジャーからシートを受け取ることで患者の生活状況や既往歴、介護保険サービス利用状況、病状、課題、家族関係等の情報を事前に得られるため、診療をスムーズに進めやすい（医師）。

・電話での連携だけでは聞き取れない情報が、視覚的に具体的に分かってよかった。また、病院ではソーシャルワーカーが受取窓口になることが多いが、紙面でいただけると、医師が介護保険主治医意見書の参考にしたり、他職種も目にするので情報共有にもたいへんよい（MSW）。

・キーパーソンのいない方の生活状況を主治医に伝えることができた。
（行政等）

○ 役に立たなかった例、困難が生じた例

・相手から返信がなかった。（医師）

・報酬がないとの理由で主治医から返信なし。（行政等）

・書面より口頭の方が早い。返事をくださるかどうかは、書面の内容よりもその方の関心次第と感じています。

入院時の地域連携シートは頻度多く使用しますが、やはり受け取った相手がただの書類としてしか扱ってくださらないことも多い。(ケアマネ)

○ その他意見・要望

・この度頂いたシートについて地域連携室との情報共有を行いました。訪問看護や、施設とのやりとり、入院時の情報収集など様々場面で使えるか検討し、運用について考えていきたいと思えます。(看護師)

・オレンジ連携シートではなくフェイスシートやサマリーシート、退院時連携シート等で代用できていることが多く、オレンジ連携シートだけを使う頻度は少ないと感じています。(薬剤師)

・相手方がシートの存在を知らなかった場合、やり取りのしづらさがあると感じます。シートの存在自体知らない介護・医療関係の方はまだ多いため、シートの普及啓発活動が必要だと感じます。(行政等)

・居宅支援事業所においては、入退院時、新規サービス利用の情報提供では、フェイスシートの利用又は千葉県地域生活連携シートAを行っているのですが、様式が変わるとその都度記載していかななくてはならなくなり、書類つくりの手間と時間がかかるので、共有できる書式にしてもらいたい。(ケアマネ)

7 現在の周知

- ・千葉県ホームページにて掲載
- ・県の各種研修の行政説明にてシートについて周知
(千葉県認知症地域支援推進員研修・歯科医師認知症対応力向上研修・薬剤師認知症対応力向上研修)
- ・本県の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、医療SW協会、介護支援専門員協議会へのアンケート調査協力依頼とともに、シートについて周知

8 今後について

- ・千葉県オレンジ連携シートの更なる活用に向け、アンケート調査や協議会でいただいた意見・要望等を参考に、周知啓発の強化を図る。